



ASSESSMENT OF TECHNOLOGY
FOR BUILDING CONSTRUCTION
GBRC FOUNDATION

GBRC 性能証明 第08-11号 改

建築技術性能証明書

技術名称：Hyper-MEGA 工法—プレボーリング拡大根固め杭工法—（改定）

申込者：ジャパンパイル株式会社 代表取締役社長 黒瀬 晃
東京都中央区日本橋浜町二丁目1番1号

日本コンクリート工業株式会社 代表取締役社長 網谷 勝彦
東京都港区港南一丁目8番27号

技術概要：本技術は、既製節杭を杭先端に用いたプレボーリング拡大根固め杭工法であり、要求される杭の支持性能に応じた設計が可能となるように、拡大掘削部の直径を拡大根固め部に位置する節杭における節部径の約1～2倍の範囲で任意に設定でき、さらに、杭周充填液として膨張材を使用したもの（膨張型）と使用しないもの（標準型）の2種類を選択できるようにしている。
なお、本技術による杭の地盤から定まる押込み方向の許容鉛直支持力に関しては、2006年3月15日に（財）日本建築総合試験所 性能評価 GBRC 建評-05-23A-002～004 として性能評価を取得しており（国土交通大臣認定 TACP-0210～0215）、さらに、使用セメントの追加に対し、2010年8月23日に（財）日本建築総合試験所 性能評価 GBRC 建評-10-231A-003～005 として性能評価を再取得している（国土交通大臣認定 TACP-0357～0362）。
本性能証明は、本技術による杭の地盤から定まる引抜き方向の支持力に関するものであり、2008年9月2日に（財）日本建築総合試験所建築技術性能証明 第08-11号として性能証明されたものである。今回の改定では、認定番号や認定時別添記載内容に表記を合わせる変更がなされている（引抜き方向の支持力自体の変更はない）。

開発趣旨：本技術は、拡大根固め部下端から上方に2m以上で杭長の50%以下の部分を拡大掘削するとともに、拡大根固め部に節杭を用いることで、支持力の向上を図った杭工法である。

当財団の建築技術認証・証明事業実施要領に基づき、上記の性能証明対象技術の性能について、下記の通り証明する。

平成24年3月8日 財団法人 日本建築総合試験所
理事長 辻 文 三

記

証明方法：申込者より提出された下記の資料により性能証明を行った。

資料①：性能証明のための説明資料 ②：設計基準および施工指針
③：載荷試験資料 ④：参考資料

資料①には、本技術の目標性能達成の妥当性を確認した説明資料がまとめられている。
資料②は、本工法の設計基準および施工指針であり、支持力算定式などの設計方法の他、施工方法および施工管理方法が示されている。
資料③には、資料①で用いた個々の載荷試験結果報告書などが取りまとめられている。

証明内容：本技術についての性能証明の内容は、引抜き方向の鉛直支持力についてのみを対象としており、以下の通りである。

申込者が提案する「Hyper-MEGA 工法施工指針」に従って施工された既製杭の引抜き方向の許容支持力を定める際に必要な地盤から定まる極限周面摩擦力は、「Hyper-MEGA 工法設計基準」に定める算定式で適切に評価できると判断される。